

てんてん新聞

第165号
発行所 岡山県 岡山市
発行責任者 岡田 誠
0683-88-5292

エコとエゴ



厳しい冬の日々、その山でも多くの生物の活動を目にする。雪の上に動めく蚊の様な虫やクモまでみえることがある。雪の上には、鹿や猪だけではない。小さい動物の足跡も多数ある。すべの生きものいる物は、何かを食べてなければ生きていけない。だから、日夜、エサを求めた活動している。それを山の一生の内生きていく為にエサを求めたのが大半だとおもいます。

自らも他の生き物をエサにし、多くの場合他の生物のエサともなっている。この活動の中にエゴはありません。

そこで、そのエサを食べずぎまごころもない。満腹になれば当然、エサとりをさすこととない。リスの様に木の皮を沢山集めてこき食べる為。忘れにり、残ったりすれば、芽を出し、他の場所が育つ木にもなる。

だから食べつくすことはないので、毎年木の皮を身に入れられるのだから。すべの循環していることになる。山の中心動物の死体をほとんども見ないのも、糞が山と化して残っていないのも、食べてくれる生物がいるからなのだろう。

この関係は、すべの、今、流行の様に見える。このエゴの世界。意識して行くこともエゴの役割をそれぞれが果たしています。

所が、エゴを叫ぶ人間が関係してくると、この循環が変化しはじめにくることを、人はもっと自覚して欲しいのびはないでしょうか。人間はエゴのかたまり。エゴがあることを自覚して、他者と接すれば何かが変わってくるのびはないでしょうか。

小さな生き物、マリとかミミズ等は、以外と気配に殺せるけど、小鳥だとどこかにひっかかる気持がある。でも、食べる時には食べていくのだから、循環の中の出来事。



でも、食べもしないのに殺す事も有り、これは人間のエゴ。

鹿、猪、猿の食害は、年々増えている。特に、ここ数年、鹿が多く見られる。毎日の様に家の近くで見かける。彼等は、人間に害を与えようと考え、民家に近づくのはない。美味いエサの場所を知っているから、ずくづくのこ。

山の木の皮を食べるのも同じこと。こんなに頭数が増えたのには、いくつかの原因はあるのだろうが、人間が原因を作ってしまったのも、また一つの原因、これをも、人間のエゴのせいではないでしょうか。

それでも、苦勞して育つ作物を横取りされるには、腹が立つ。見れば可愛らしい目をしていて、殺さざるを得ない。どこへ食へなくとも。

← 食害被害と関係

